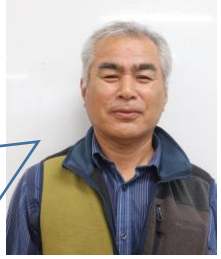
橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ⑬

橘町HP https://tachibana-net.jp 歴史・史跡をクリック

発　行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和５年７月１日
責任者：國平　安治
事務局：橘公民館　22-3884

今回の案内は
納手区長　鳥越　弘隆さん



井手橋の所バ、チョロっと試験調査したギ、土器ン出てきて、そいから潮見川の調査が本格的に始まったッタイ。

クイズ
右の写真は何ですか？
（答えは裏④）

★印番号の解説

★①納手遺跡の場所（赤丸のところ）

ジャーン。今回も弥生人になって案内するね。

浸水しにくくなった集落のうていせき
納手遺跡（納手）

●どこに、あ～と？
納手の川べた★①にあるバイ。昔から、川のねっつう（すぐ近く）に住んできたケン、自分達の足元★②に遺跡があーて思わんやったね。

●なして、調査が始まったと？
オイが生まれた昭和28年は、北部九州の大水害★③で1,000人以上も死んだッタイ。そこで、昭和33年から建設省（現国交省）による河川改修が下流から始まったタイ。

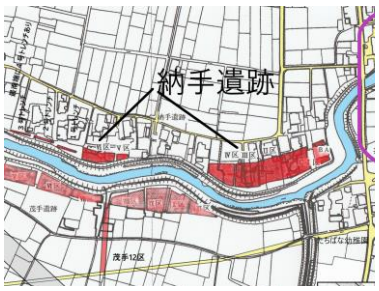
●誰が調査したの？
武雄市が初めて専門官を採用して調査したトバイ。納手ンもんも、よんにゅ作業に行きんしゃったね。

●どがんとの、出てきたと？
弥生時代の小型仿製鏡★④や脚台付土器★⑤、古墳初期の注口土器★⑥、開元通宝★⑦、中世の掘立柱建物跡などが見つかったバイ。

納手遺跡は潮見川左岸（上流から見て左側）。写真は堤防から納手公民館を写したんだ。

★②足元の調査箇所
（みやこ発掘調査報告書より）

河川敷が倍に広がって、今は堤防の下になっているよ。今、家が建っている所も遺跡なんだね。



六角川流域の平地は、柔らかい有明粘土層と有明海の満ち引きの影響などで「ガタ土」と呼ばれる泥が、川に堆積しやすいんだ。

★③S28 大水害

S28 牛津町内水害写真
国交省九地整 HP より借用

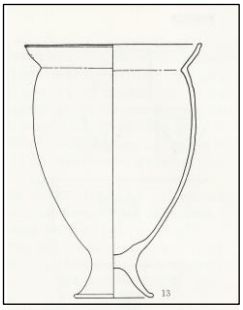
★④　小型仿製鏡

この鏡は弥生時代のもので、市内では、茂手遺跡、郷ノ木遺跡についで**3例目**の出土だよ。墓に埋納したものでなく、土中からみつかったんだ。仿製とは、日本で作られたことをあらわすよ。

クイズの答え　鏡

★⑤　脚台付土器など
弥生時代の様々な土器

弥生時代の土器は、透かし窓を持つ土器やミニチュア土器など、**祭事に使われた**と思われる土器のほか、胴の部分が長くなった甕に脚台が付いたものも出土したよ。となりの茂手遺跡でもかなり出土したよ。甕棺墓も見つかっているよ

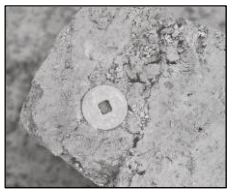


脚台付土器の図面

図・写真は報告書より

★⑥注ぎ口土器（右写真）

深めの鉢に注ぎ口をつけた土器も珍しいよ。これは弥生後期から古墳初頭にかけてのものなんだ。



★⑦開元通宝（右写真）

開元通宝は、唐という古代の中国で武徳4 年（621 年）に初めて作られ、それから 300 年にわたって流通した貨幣なんだ。中国のお金が橘で出てきたのは、**有明海を通って潮見川が利用されていた**からなんだね。

納手地区が、今、浸水被害にほとんど合わないのは、ここが**潮見川の堆積作用で左岸側（潮見山側）にできた微高地だった**から。弥生時代の遺跡が出てくるということは、人々がこの高台に住んだ証拠なんだ。
わずかに高台になっているので、昭和の大改修の後は、内水氾濫はおこりにくいんだね。

●六角川（上流部は潮見川）の洪水と発掘調査の関係

- 昭和 28 年に北部九州で大水害が発生（1,000 人以上死亡）
- 六角川は昭和 33 年から建設省（現国土交通省）直轄による河川改修着手
- 改修工事に先立ち、文化財の確認調査⇒井手橋付近で文化財を確認
- 昭和 53 年から武雄市教育委員会によって文化財の発掘調査開始
- 昭和 55 年再び大水害で調査を急がされる
- 昭和 61 年六角川埋蔵文化財報告書提出

（上は S55 水害写真）

国交省九地整 HP より借用

今回のご紹介した遺跡は『弥生・古墳時代』のもの（近世まで続く遺跡ですが）

時代区分	縄文時代	弥生時代	古墳時代		奈良時代		平安時代		鎌倉時代	
新・ふるさと歴史散歩記載項目	1 万年前に気候温暖、島国に。土器を作り煮炊きや貯蔵が可能に。	紀元前3C～3C。水稲栽培と弥生土器。環濠集落と小国家形成。大陸との交流も盛ん	3C 半ば～700 頃。古墳を造った時代。大和を中心とする統一国家（大和王権）の形成	任那日本府の滅亡と白村江の戦い後期は飛鳥時代へ	律令体制。710～794　国史編纂と風土記。武雄が杵島の郡として記載される。	条里制が敷かれ、土地の開墾と荘園化が始まる。国分寺・尼寺を建立、奈良麻呂の乱	藤原氏の権力増大、摂関政治を行う。荘園を貴族や寺社が支配、武士団を形成。	宮中警備・地方の治安に武士登用、支配の一旦を担う。平治の乱で清盛が朝廷の実権	鎌倉幕府成立。守護地頭による地方支配、橘氏の入部	元寇襲来と警備、恩賞要求と幕府の弱体化、少弐・大友の探題攻撃
主な市内遺跡 赤書は橘町	市場・下貝原・釈迦寺遺跡等の遺物。市内 200 カ所以上。阿舎利・椿原遺跡（山内）	小楠-みやこ遺跡の環濠、**納手遺跡**、潮見川流域・**釈迦寺遺跡**、市内 100 カ所以上。	町内遺跡の鏡、銅剣。玉江遺跡武雄平野を取り囲む山の周辺で 300 基以上	玉島・潮見古墳、おつぼ山神籠石、東福寺・矢ノ浦・大蛇古の前方後円墳。線刻古墳も	肥前風土記と歌垣山、井手橋・林副（墨書土器）武雄温泉広福寺仏像	ドウザマ墓地立石と官道小野原遺跡（条里制跡）向野須恵器窯跡（北方）郡衙施設	長嶋庄成立橘町条里制庄の前遺跡おつぼ山経塚武雄神社、黒尾神社、各地の経塚	長島庄は 1170 代に蓮華王院領佐賀県最古の文書(実検状）歓喜寺薬師如来像と後藤氏	潮見城跡と館跡、潮見・山下・小野原・馬場・立岩等の中世遺跡源頼朝御教書	潮見川開削と河童誓文石、渋江・中村・中橋氏館跡塚崎庄が長島庄から分離